

# Monthly Report

Vol.74 / 2012 Jun.

## 名取市教育委員会と連携協力に関する覚書を締結



6月21日（木）、名取市教育委員会と仙台大学は「連携協力に関する覚書」交わしました。今回の締結で、①児童・生徒の学校生活の支援、②教員養成や現職教員の研修、③生涯学習および生涯スポーツ事業への協力、④大学および学校における教育研究面での協力、⑤その他双方が必要と認める事業、において連携協力が図られます。本学A棟大会議室で行われた調印式では、名取市教育委員会の丸山春夫教育長が「名取市教育委員会はこれまで協定を結んだ前例がなく、仙台大学との締結が初めて。被災地の未来を担う子どもたちの元気・健康のために、ご支援ご協力をお願いしたい。」と挨拶され、朴澤学長は「名取市は復興に向けて大変な時期。可能な範囲で仙台大の持っている資源を活用いただき、また学生育成の観点からご協力ご指導いただきたい。」と話しました。



### 目次

名取市教育委員会と連携協力に関する覚書締結	1
日本体力医学会東北地区東京おもちゃショーに出展	2
新任者紹介 白坂牧人氏 馬職員中国の番組に出演	3
海外留学・語学研修合同報告会	4
蜂須賀孝治さんが特別委指定選手に	6
本学ビーチバレーボールコートで高校生県大会	7
明成高校早坂さん紹介	8

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございまし  
たら、広報室までご一報ください。

#### 広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

## 日本体力医学会東北地区会第21回大会が本学で開催



写真提供：高橋弘彦教授

6月16日(土)、本学を会場として「日本体力医学会東北地区会第21回大会」が開催されました。

午前の一一般研究発表では6演題がエントリーされ、山口貴久講師も「体育系大学運動部学生への傷害調査」について発表されました。

特別講演では、橋本実教授が「被災地における健康づくり支援」と題して講演を行い、本学が東日本大震災後に沿岸部の被災地において行ってきたボランティア活動、特に震災直後から継続してきたエコノミークラス症候群予防のための運動支援についての報告とその効果や今後の課題等について話されました。

午後から行われたランチョンシンポジウムでは、仙台に所在する楽天イーグルス、ベガルタ仙台、89ERSの3つのプロスポーツチームのジュニア育成コーチをシンポジストとして招き、本学からは鈴木省三教授が加わって「ジュニアアスリート育成の現状・課題・展望」をテーマとしてディスカッションが行われました。

本大会では鈴木省三教授が大会長、高橋弘彦教授が大会事務局長、竹村英和講師らが大会実行委員を務め、大会の準備や運営にご尽力されました。たいへんお疲れ様でした。

## 東京おもちゃショーに仙台大学ブースを出展



「発電床」の説明を行う吉井講師  
写真提供：千葉コンサルタント

国内最大規模の玩具見本市である「東京おもちゃショー2012」が6月14-17日に東京ビッグサイトで開催され、本学から吉井秀邦講師が研究している「発電床」の出展と、昨年10月に本学を会場に開催された「東北子ども博2011」の様子をパネル展示して紹介しました。「東京おもちゃショー2012」は前半の2日間が玩具取引業者を対象とした商談見本市、後半の2日間が一般公開され、4日間で159,678人もの来場がありました。本学のブースにも発電床に1,577名、パネル展に314名の来場があり、本学の活動を知っていただく良い機会となったようです。

展示したパネルを制作し、会場でも来場者



トヨタ自動車(株)の豊田章男社長に説明する千葉コンサルタント  
写真提供：阿部篤志講師

の対応を行った千葉コンサルタントは「玩具業界にとどまらず、色々な業種の方々が自分の企業や業界で生かせるヒントはないものかと探しながら来場しているのが目立ちました。昨年の東北子ども博2011に参加した方も数名来場し、今年も参加したいと話される方や、発電床を試され実用化を期待していますと話す方もおり、本学の良いアピールの機会となりました。」と話しています。

また、前半の2日間ブースを対応した馬佳濠助教も「玩具業界で活躍されている本学OB数名も本学ブースに立ち寄り、仙台大学の社会貢献事業等を誇りに持たれていた様子だった」と話しています。

## New Face ～新任者紹介～

しらかまきと

### トレーニングセンター担当新助手の白坂牧人さん

#### 《プロフィール》

愛知県出身。高校卒業後に父親の母国であるアメリカに渡り、カリフォルニア州立大学サクラメント校にて運動科学を専攻。その後、MLB ニューヨークメッツ育成部門やNCAA 1部モンタナ大学にてストレンクス&コンディショニングコーチとして勤務。2007-2008シーズンにはNBAサクラメントキングスにてインターンも経験。

#### 《有資格》

CSCS、NASM-CES

#### 《教職員、学生のみなさまに向けて》

日本に誇れるこの素晴らしいトレーニング施設で働く機会を頂けたことをとても光栄に思います。トレーニングがみなさんにとってより身近なものになるよう



に、その奥深さや醍醐味をお伝えできればと思っております。見かけは外国人寄りですが、ちゃんと日本語話せますのでみなさん気軽に声をかけてください。

## アイリスオーヤマ(株)ボート部所属の岩本亜希子選手が宮城県知事を表敬訪問し、ロンドン五輪出場の報告



ロンドンオリンピックに日本代表としてボート競技に出場する岩本亜希子選手（アイリスオーヤマ）が、日本ナショナルチームのヘッドコーチを務める阿部肇准教授らと共に宮城県庁を訪れ、村井知事に大会出場の報告を行いました。岩本選手のオリンピック出場はシドニー、アテネ、北京に続いて4大会連続4度目で、ロンドンでは女子ダブルスカルで表彰台を目指します。8日にはメトロポリタン仙台を会場に、アイリスオーヤマ(株)主催の壮行会が行われ、本学からも朴澤学長、阿部准教授はじめ白石川で共に練習することも多い学生代表が出席して五輪代表の祝福と、五輪での活躍を祈願しました。

## 馬 冬梅職員が中国遼寧省の番組に出演



マ ドンメイ

馬 冬梅職員（大学院事務室）が故郷である中国の遼寧省で放映されている「青少年チャンネル」で紹介されました。この番組は、海外の大学

に留学した後、現地の企業等に就職して活躍している人物にスポットを当て、これから留学を考えている方や、留学中の方に対して留学のメリットや方法を紹介しているものです。

遼寧省は日本の東北地方ほどの範囲で、6月14日の夜8時代に約5分間放映されました。馬さんの紹介と合わせて仙台大学の中国所在大学との提携も紹介されています。

スポーツ情報マスメディア研究所にご尽力いただき、この映像に日本語のテロップを入れたものを第3体育館壁面の大型スクリーンでも放映しますので、どうぞご覧ください。また、広報室ではDVDも保管しておりますのでご覧になりたい方はお声掛けください。

## 平成24年度 第1回海外留学・語学研修合同報告会

～5つの海外研修について学生が報告～



6月6日（水）17時30分よりF101教室において、学生たちによる「平成24年度第1回海外留学・語学研修合同報告会」が開催され、鎌田国際交流センター長はじめ教職員・学生が多数参加しました。

### 報告①ハワイ州立大学アスレティックトレーニング研修ビギナーコース

- ・日程：2月20～26日
- ・参加学生：10名

成田大貴さん(体3)、外谷涼将さん(体3)、  
村松里美さん(体3)、山崎可奈子さん(体3)、  
船山美希さん(体3)、東館亮太郎さん(運3)、  
渡辺 尚さん(運3)、山本康平さん(体2)、  
三好聖奈さん(体2)、小坂望美さん(体2)

ハワイ州立大学において、今回で14回目になるアスレティックトレーニング(AT)研修ビギナーコースに参加した10名は、ハワイ大学の施設、マッキンリー高校・イオラニ高



校のATルームを見学、実際に選手をケアしている場面や試合前のトレーナー活動を見学し実践的な研修を受けることができましたようです。また、現地ATCの方と直接話す機会も設けていただき、テーピングや脳震盪、ロルフイングという筋膜リリースの講義を受けた他、現地学生トレーナーとの対談の際には、日本とアメリカの学生トレーナーの立場の違いを実感したようです。人体や筋肉など仕組みを学ぶだけでなく、運営に関するマネジメントまでも学習できたことは、学生たちにとって充実したプログラムであったようです。

### 報告②ハワイ州立大学英語研修(NICEプログラム)

- ・日程：2月5～25日
- ・参加学生：6名

須貝真実さん(体3)、高垣一枝さん(体3)、  
齋丸愛さん(運3)、海上拓哉さん(体2)、  
嶋田直人さん(健2)、鶴巻雄大さん(現2)

英語研修は、3週間の日程で学習するプログラムで、初日に実施された英語力テストによってクラスが振り分けられました。学習は全て英語で行われ、わからない英語も辞書やジェスチャーを使って進められました。講義はゲームが取り入れられたり、設定されたシチュエーションで話すことを要求されたりと、最後まで集中力が切れないような授業が展開され、充実したものとなったようです。また、プログラムの中に、ピクニックやアクティビティー、フラダンスのセッションも含まれており、実践を通して英語を学ぶことで「英語がより好きになった」と話す学生もいました。



### 報告③カヤーンニ応用科学大学短期交換留学プログラム

- ・日程：2月6日～3月1日
- ・参加学生：3名

泉 幸さん(健4)、松川瑛司さん(健4)、  
山田彩夏さん(健3)

日本で事前に準備した能楽、折り紙、俳句をカヤーンニ応用科学大学の学生にプレゼンテーション等を行い、日本の文化を知ってもらういい機会になったようです。また、報告会を聴きに來ていた先生から「カヤーンニ応用科学大のプログラムにするにあたり、どの程度の英語力が必要か？」との質問には、「中学校程度であれば大丈夫です。」と答えていました。誰にでもチャンスがあり、そして将来の自身の成長と人間育成としての幅を広げられる場がこの研修なのではないかという思いが伝わってきた発表でした。



#### 報告④台東大学短期交換留学プログラム

- ・ 日程：3月4ー29日
- ・ 参加学生：2名  
佐藤志帆さん(健4)、小林真衣さん(体3)

実施プログラムは、空中探索やサーフィン、スキューバダイビング等多種多様にあり、語学や異文化に触れることで多くのことを得られたようです。実施されたプログラムのほとんどがアクロバティックなものであり、



その中で自分と向き合い、視野が広がったとの報告がありました。佐藤さんが一番印象に残っているプログラムは原住民との交流だったそうで、原住民が通う小学校で歌を歌ってもらったり、一緒に授業をしたりして普段体験できない貴重な経験ができたようです。

最後に「台湾では毎日が新鮮で刺激的でした。他国の教育にも触れ、同じ教育者を目指す学生との交流は、教育に対する意欲の向上はもちろん自分のスキルアップにも繋がったと思います。多くの人との出会いに感謝し、台湾で学んだ中国語を、留学生との交流に活かしていけるようにしたい。」と力強く語っていました。

は学生にとって、貴重な体験になったようです。特にエリート選手の意識の高さや環境の良さに関心を持ち、日本の大学との強化体制の違いについて考えることもたくさんあったようです。

以上の報告があった後、鎌田国際交流センター長から「研修に参加した学生たちがそれぞれのプログラムで豊かな経験をしてきたことを感じました。海外に行った体験を消化するためにはおそらく時間がかかると思いますが、学んできた体験を少しずつ消化しながら今後の糧にしていきたい。」と講評をいただき、報告会が終了しました。

今回の研修で学生も海外経験により異文化を直接体験したことで、国際理解を深めると共に、コミュニケーション能力も身につき自立心、積極性、精神力も強くなり視野が広がったことと思います。このような経験が留学やその後の国際交流活動の拡大につながり大きな可能性を秘めています。学生にとって実り多き研修となり、今後のさらなる意欲につながることでしょう。

#### 報告⑤韓国体育大学校との国際交流協力校訪問プログラム

- ・ 日程：2月19ー26日
- ・ 参加学生：5名（共に現代武道学科2年）  
大谷健太郎さん、渋谷正幸さん、  
千葉裕也さん、新沼智将さん、橋本力さん

韓国語での自己紹介があった後、韓国体育大学校が有する2つの大学が紹介されました。1つは専門エリート選手及び指導者の育成を理念にかかげて23種目29



部のスポーツで構成された体育学部の体育学科。もう1つは生涯教育の先導的な役割を担う生活体育指導者を育成する生活体育大学についてです。その上で、「トレーニングセンターや学生寮の充実した環境が整備されていることが、選手強化にもつながっているのではないかと分析していました。

韓国でも多くのオリンピック選手を輩出している大学で、実際に選手を拝見することができたこと



<報告：芦川尚子新助手、品田有佳新助手>

## サッカー部の蜂須賀孝治さんがJ1ベガルタ仙台の特別指定選手に



6月5日（火）、サッカー部の蜂須賀孝治さん（体育学科4年／桐生第一高卒）が日本サッカー協会から大学に所属しながらJリーグの公式戦に出場できる特別指定選手に承認されました。本学では主にボランチとして活躍。昨年と今年のデンソーカップでは北海道・東北学生選抜チームとしても活躍し、今年の大会のベスト11にも選出されています。蜂須賀さんは既に練習生としてベガルタ仙台の練習に継続的に参加しており、今後の活躍に大きな期待がかかります。

日本サッカー協会HP

<http://www.jfa.or.jp/training/topics/2012/42.html>

## U23世界ボート選手権大会の日本代表に内定



写真左：福田さん、右：池内さん

池内風さん（いけうちわたる／体育学科4年）と福田海人さん（ふくだかいと／体育学科4年）が5月のU23代表選考会を経て、7月11 - 15日にリトアニアで開催される「U23世界選手権大会」男子軽量級舵手なしフォア日本代表クルーに内定しました。

池内さんは2年前の同大会にも日本代表クルーとして出場して7位入賞を果たしており、今大会でもチームを表彰台に導く活躍が期待されます。一方、福田さんは初の代表選出ですが、大学では池内さんと共にチームの中心選手として漕艇部をけん引しており、初の世界の舞台で活躍が期待されます。

### 池内風さん（体育学科4年）

2年前に初めて出場したU-23世界選手権では、0.4秒の差でAファイナルに進めず、たいへん悔しい思いをしました。今大会に挑む日本クルーは4人とも世界に十分通じる力を持っています。特に大学でもチームを組んでいる福田は、ストロークの長さや角度が取れる選手と一緒に戦えることはたいへん心強いです。私は出場する大会全てで優勝を狙っており、このスタンスは世界大会でも同様です。Aファイナルに残り、日本チーム初の優勝を成し遂げたいです。

### 福田海人さん（体育学科4年）

高校では全国大会での実績がなく、日本トップの指導を受けたくて阿部肇監督のいる仙台大に進学しました。入部当初は世界大会に出場できるとは微塵も思ってもいませんでしたが、阿部監督の指導や、周囲の方の応援があって日本代表をつかみ取ることができました。共に代表に選出された池内はチームで唯一、世界を経験していますし、大学でも互いに同じリズムを共有できるパートナーです。世界の舞台は初めてですが、4人全員が自分のパフォーマンスを全て出し切り、優勝を目指して頑張ってきます。

自分たちの活躍で、いつもボート部を応援してくれる柴田町の方々や昨年の震災で大きな被害を受けた被災地の皆さんに明るいニュースを届け、元気を与えられたらと思います。

## 本学ビーチバレーボールコートで高校生の全国大会出場をかけた県予選を開催

～東日本大震災の影響で未だ浜辺での大会が行えない現状～



大会を始めるに当たり、ルール説明のためデモンストラーションを行う本学ビーチバレーボール部員

本学ビーチバレーボールコートを会場にして、6月30日、7月1日の両日、高校生のビーチバレーボール全国大会出場をかけた予選会が開催されました。本来であればビーチバレーボール大会は浜辺で行われるものですが、東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手・宮城県の沿岸部で開催するのは未だに困難な状況であり、ビーチバレーボールコートを持つ本学に施設借用依頼があったものです。6月30日(土)に宮城県予選会、7月1日(日)に岩手県予選会が行われ、本学ビーチバレーボール部員も地域貢献の一環で大会運営の協力を行いました。

## 第21回 河北レガッタ2000



写真提供：漕艇部

6月23、24日に登米市長沼ボート場で開催された「第21回河北レガッタ2000」に本学の漕艇部が出場し、5種目で優勝を果たしました。また、本学OBである大元英照選手（アイリスオーヤマ：H19卒）もダブルスカルで出場し、2位を34秒引き離す圧倒的なレース運びで優勝しました。

今回の大会には会場である長沼で合宿中の本学准教授の阿部肇ヘッドコーチが指導する日本代表クルーも参加。本学の学生は日頃できない代表クルーとのレースを通じ、多くのことを学び取ることができたようでした。

### [男子シングルスカル]

- 1位 浅野和也 (体4)
- 2位 平山貴義 (体2)
- 3位 峰野公貴 (体1)

### [男子ダブルスカル]

- 1位 大元英照・須田貴浩  
(アイリスオーヤマ)
- 2位 石森靖明(教務課)・今井寿亮(体3)

### [男子舵手付フォア]

- 1位 赤間拓哉(体4)・今野栄也人(体3)・  
武田圭司(体2)・本間功将(体1)・  
宮本将伍(体1)
- 2位 納城紘一(体4)・東久保大悟(体3)・  
門倉亨(体3)・阿部聖(健2)・  
今井寿亮(体3)

### [男子エイト]

- 1位 福田海人(体4)・松岡真(体3)・  
池内風(体4)・外崎海舟(体3)・  
阿部大貴(体4)・吉田樹(運2)・  
林緩哉(体1)・畠山惇史(体4)

### [女子シングルスカル]

- 1位 依田光(体4)

### [女子ダブルスカル]

- 1位 中川ひかり(体2)・田中香加(体2)
- 2位 大角真央(運4)・小口桜子(体3)

## 同法人明成高校の早坂優子さん紹介

～FLOOR BALL部で主力選手として活躍～



本学FLOOR BALL部女子チームには、同法人である明成高校介護福祉科3年の早坂優子さんが所属し、主力選手として活躍しています。早坂さんは中学校1年生から仙台市を拠点に活動している社会人サークル「仙台MAX」で

フロアボールをはじめると、すぐにその魅力に引き込まれたそうです。本学フロアボール部も当時は部員が少なかったことから同サークルに所属して活動していましたが、平成21年に単独チームを結成。この時から早坂さんは本学のチームに加わっています。「日本代表としてプレーしたい」と話す早坂さんは、片道約1時間かけて本学の練習に週4日参加し、時間の合間を縫って仙台MAXの練習に参加するなど受験勉強と両立させながらフロアボールに打ち込んでいます。「大学生は社会人の方と比べて年齢も近く、会話もプレーするのも楽しいです。そんなチームメイトと3連覇を誓って挑んだ春季東北大会（6月9、10日開催）では決

勝で敗れ、たいへん悔しい思いをしました。練習を重ねて、フォワードが安心して攻めに行けるディフェンダーになりたいです。」と話し、更なるレベルアップを目指しています。フロアボール部は7月8日にも大会が控えており、活躍が期待されます。

なお、早坂さんは将来、特別支援学校教諭を目指しているようで、本学健康福祉学科に進学し、フロアボール部で活動していきたいとの希望を持っているそうです。



早坂さんの担任で、本学健康福祉学科OBの高橋祐也先生（平成18年度卒）も春季東北大会に駆けつけてくださり声援を送りました。